

改憲の動き強まるなか 憲法を活かす会の活動が重要

憲法を活かす会・千葉県協議会が20回定期総会開催



コロナ禍で困窮する人達の報告をする東海林智さん

憲法を活かす会・千葉県協議会が10月8日に千葉県教育会館で第20回定期総会を開催しました。主催者を代表して廣瀬理夫共同世話人は「昨年10月の総選挙と今年7月の参院選で改憲政党内に改憲に必要な三分の二を超える議席を与えてしまっただけで、岸田政権は数々の力と背景に安倍元首相の国葬『儀』を強行した。国民の多数が反対している。また、旧統一教会との関係が明らかになり支持率を下げる結果となった。防衛費は増大し現在5兆3千億円をGDP比2%10兆円を超える政策を打ち出した。軍事産業のための爆買いが優先されている。今後は自民党を始めとした改憲勢力の動きがより厳しくなってくるなかで、憲法を活かす会の活動がますます重要になってくる。護憲勢力の拡大のために皆さんの更なる頑張りをお願いします」と話しました。

総会はこの1年間の活動を振り返り、山武・長生地区と柏地区から具体的な活動の報告がされ、新年度の活動方針と予算、新役員が承認されました。第2部は、毎日新聞社社会部編集員の東海林智さんが「コロナ禍で困窮する人達の報告をする東海林智さん」と題して報告しました。

林(とうかいりん)智さんを招いて「コロナ禍の市民生活」「憲法改悪をさせないために」のテーマで講演を受けました。

講演の主な内容
コロナ禍で生活が困窮しているのは女性、高齢者、非正規労働者で、生存権を脅かされている状況が覆い隠されている。女性の半数以上が非正規雇用で、シングルマザーは子供を抱えて生きていくことが難しい実態に置かれている。

二代派遣女性
20代の女性派遣労働者はコロナで仕事が無く、ネット検索で見つけた特殊詐欺の「受け子」をやるようになって結局捕まった。「受け子」は以前は若い男性が多かったが、コロナ禍で女性や高齢者も珍しくなくなった。

母子最後の食事
仕事が無くなってお金が底をつき、子どもを連れて最後の食事に行った。いつもは我慢をさせていたが初めて「何でも食べていいよ」って言ったら子どもは喜んで天丼を食べた。パフェも初めて食べさせた。その晩に死ぬつもりだったが、子どもがあまりにも嬉しそうにしていたのを見た。

葬式代も喰った
ある高齢者は「こつこつ貯めていた葬式代はもう喰っちゃったよ。どう生きていけばいいか分からない」。相談村に来た最高齢者は93歳。働いている最高齢者は87歳で仕事が無くなって生きていけない。講演はさらに非正規労働者のシフト制という働き方の問題点、個人請負ウーバーの自転車操業の問題点などに触れ、「このような社会を変えるために活動している皆さんの頑張りに期待しています」と結びました。

四季へのいざない
境内のあさき潮の香太鼓焼 水明
「太鼓焼」は今川焼の傍題として載る。他には巴焼・義士焼の名も。又、鯛焼も頂を別たてられている。どちらも通年食べることが出来るが、特に冬の日差しを浴び食べるその味は一人である。掲句は、参詣を済ませ境内で太鼓焼を食べている景。恋人同士か、あるいは家族連れか、時折の潮の香が太鼓焼にいつそうの風味を添える。ゆっくりと時の流れる冬の日の午後の一瞬である。



国鉄闘争の経験と教訓を活かす千葉県共同協議会、10月16日習志野市において「2022年千葉県団結まつり」を開催しました。

千葉県団結まつり開催
上をめぐす人達を支援し交流することを目的として行います。JAL被解雇者労働組合とユニテッドが、今年も、楽しい飲食は自粛となりましたが、舞台の出し物や抽選会などで大いに盛り上がりました。

シングルマザー
シングルマザーで健康飲料の訪問販売をしていた人は、企業と個人契約をしているので

旅好きで年6回以上は国内各地を旅しましたが、年金生活になり2回に減りました。
コロナ禍で旅は控えていましたが、9月に妻と中央アルプス方面に出かけました。木曾駒ヶ岳の麓にテントを張り2泊3日の行程。5時に県内を出発、台風の影響でパラパラと雨に見舞われるが順調に都内通過、そのため判断ミス、高速道から一般道を選択。なんと国道は通勤ラッシュ。到着は1時間遅れでガツクリ。天候も好くなく、駒ヶ岳・千畳敷カールへの「登山」は翌日に変更し木曾福島温泉場へ、その後旧中山道「奈良井宿」へ、コロナの影響か人は疎らでした。

夫婦でテントもいもんだ
朝食後に出発、バスとロープウェイを乗り継ぎ千畳敷カールへ、ガスが出ていましたが広がるカールの絶景と南アルプスが望めました。カールを散策するとホランテア・ガイドの方の説明では「今日は良く見えている」とのこと。久しぶりに良い旅が出来ましたことに感謝しています。

好晴
であったことが伺えます。妻籠宿、馬籠宿は次回としキャンプ場へ、食材を購入し「早太郎温泉」へと温泉巡りも出来ました。翌朝ザザザとテントに降注ぐ水の音で目が覚め「今日も雨か」と表をみると晴天、雨音は林に残っていた雨水が降り注いだものでした。散歩に出ると空が明るみ、低い山並みの奥に南アルプスが見渡せました。稜線の一部が一際輝いてきました「御来光」です。感動は大きなものでした。

3-7-タイム

旅好きで年6回以上は国内各地を旅しましたが、年金生活になり2回に減りました。コロナ禍で旅は控えていましたが、9月に妻と中央アルプス方面に出かけました。木曾駒ヶ岳の麓にテントを張り2泊3日の行程。5時に県内を出発、台風の影響でパラパラと雨に見舞われるが順調に都内通過、そのため判断ミス、高速道から一般道を選択。なんと国道は通勤ラッシュ。到着は1時間遅れでガツクリ。天候も好くなく、駒ヶ岳・千畳敷カールへの「登山」は翌日に変更し木曾福島温泉場へ、その後旧中山道「奈良井宿」へ、コロナの影響か人は疎らでした。

版画の店でハガキを購入し、町の端から端まで歩くと、大宿場町